



①メイン会場全景 ②中央芝生広場花壇 ③市民参加花壇 ④キカラシ花壇

ガーデンフェスタ北海道2022における チャレンジ

株式会社ドーコン

福原賢二・川口賢一・林昌弘・本郷真毅・藤井康生・
加藤賢史・宮達直也

人口約7万人の地方都市（恵庭市）が主役となったガーデンフェスタ北海道2022。これまでの緑化フェアの歴史に刻まれた開催となったと自負している。それは昭和36年に地元の高校の小さな温室で始まった花づくりへの思いとそれを享受し花の街づくりを発展させてきた多くの市民・生産者・行政関係者の情熱に支えられたからに他ならない。この度のガーデンフェスタでのチャレンジは地元関係者の顔が見える取組みとして多様なステークホルダーを繋げて有機的に機能させるコンサルティングにも気を配った。主役の植物も選定から生産・搬入・植栽・管理・撤去に至るまで限られたコストで最大のパフォーマンスが発揮できるよう取組み、フェア終了後もこぼれ種で余韻が残る続ける遊び心も加えて関係者で楽しんだ。

作品概要

作品名—— ガーデンフェスタ北海道2022におけるチャレンジ

所在地—— 北海道恵庭市南島松828-3他

発注—— 恵庭市

事業目的—— 本業務は「第39回全国都市緑化北海道フェア基本計画」に基づき、2022年6月24日から7月24日の期間に開催された「第39回全国都市緑化北海道フェア」におけるメイン会場等の基本設計、実施設計および植栽施工監理を行い、施工業者及び発注者と十分な協議調整を図りながら、円滑な工事施工の推進及び適正な工物品質を確保することを目的とした。

事業体制—— 第39回全国都市緑化北海道フェア実行委員会・恵庭市→当社

協働者等—— 高野ランドスケーププランニング株式会社、恵庭市花苗生産組合、株式会社ガーデンシティ恵庭、恵庭まちづくり協同組合、TSP太陽株式会社、株式会社グリーンダイナミクス、日本公園施設業協会北海道支部、北海道造園緑化建設業協会

事業期間—— 2020年12月24日～2022年9月30日

事業規模—— 約6.1ha

作品評

本作品は、全国都市緑化フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」の恵庭市メイン会場において、植物に関する計画設計・育苗・施工監理に取り組んだ業務である。

本作品の着目すべきところは、従来の都市緑化フェアに関する応募作品に多い傾向であった会場内のエリアや花壇の内容の説明が主眼ではなく、寒冷地ならではの工夫や現地での問題が生じた際の対策、フェア後の活用方法などについて技術的な説明がなされている点である。積雪寒冷地の特徴を考慮した植栽方法や地元植物材料の調達調整、フェア後の会場・素材の有効活用の企画と運営の仕組みづくりなどが具体的に記されている。これらのノウハウは、他方面でも活かすことができる貴重なストックとなっており、応募者がその中心的な役割を果たしていることが高く評価された。応募資料についても、力を入れて取り組んだポイントがわかりやすいと評価されたが、フェアの準備段階から終了に至る間の応募者が果たした役割や各方面との関わりを時系列で表した説明が望まれるとして奨励賞と評価された。